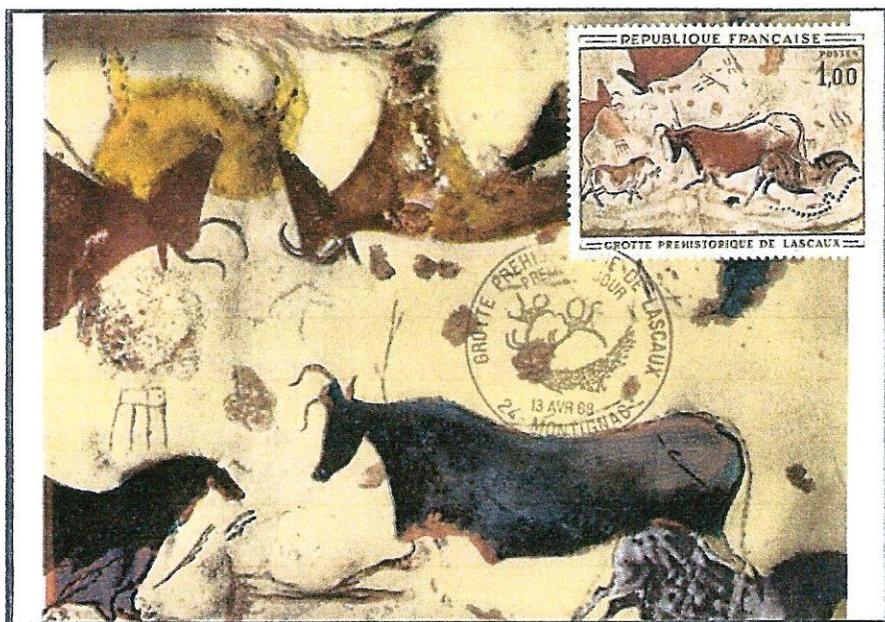


フランスの古代洞窟壁画

蜂谷紀之



ラスコー洞窟 1968.4.13 モンティニャック局 マキシмумカード [×0.8]



ルフィニャック洞窟 2006.5.27 マキシмумカード [×0.8]

人類の芸術表現は、旧石器時代の3万5000年前～1万年前に現れました。これらは、アフリカ、欧州、オーストラリアなどに、洞窟壁画として残されています。ここでは、フランスで発見された洞窟壁画の切手を紹介します。

ラスコー洞窟の壁画(前頁上マキシмумカード)には、「一角獣」と呼ばれる牛と馬が描かれています。これはフランス西南部ドルドーニュ地方のモンティニャックにあり、約2万年前の後期旧石器時代

に、新人クロマニヨン人が描いたと考えられます。上の切手は2019年に発行された美術切手で、ラスコー洞窟の「牡牛の大広間」の壁画を描いています。

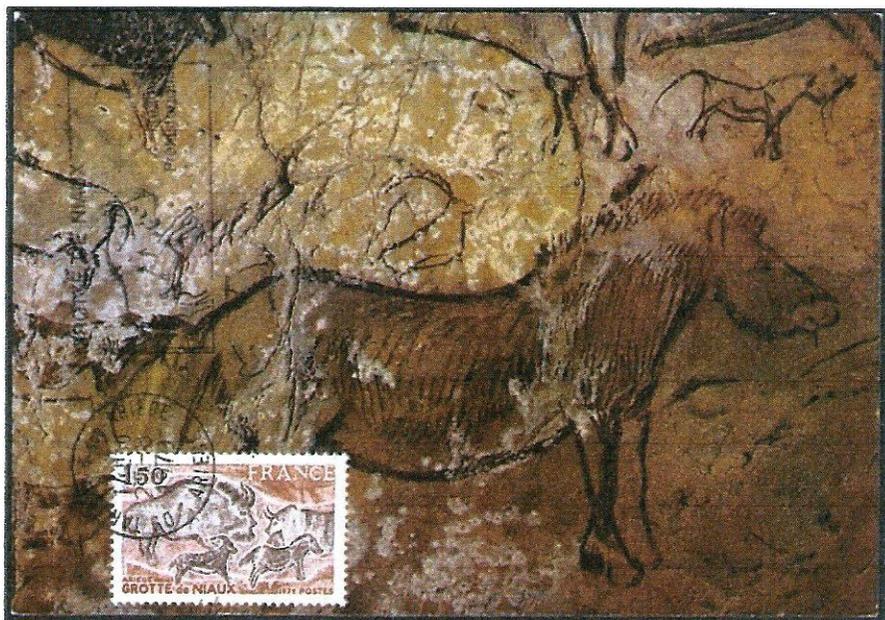
ルフィニャック洞窟(前頁下、マキシмумカード)は、ラスコー洞窟の近くにあり、これらは、ヴェゼール溪谷の先史的景観と装飾洞窟群として、ユネスコ世界遺産に登録されています。1万3000年前に描かれたこの洞窟壁画は、154体ものマンモスが描かれていることから、別名「マンモスの洞窟」とも呼ばれています。

ショーベ洞窟の壁画(次頁、小型シート)は、フランス南部のアルデッシュ県にあります。1994年に発見され、ヨーロッパで最古級の3万7000年前から3万2000年前の壁画とされています。牛や馬のほか13種ほどの動物300点以上が描かれています。

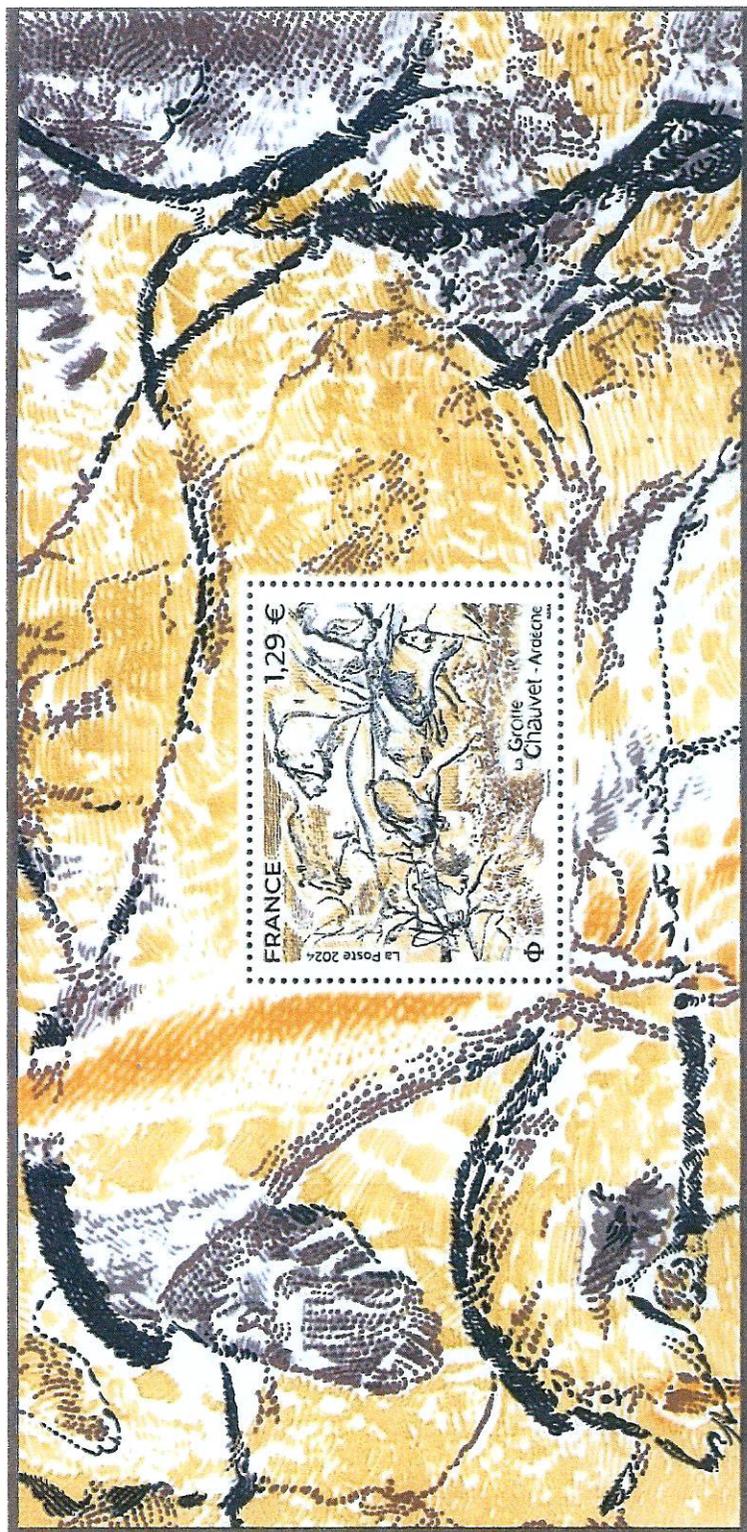
ニオー洞窟はフランスのピレネー山脈にあります。壁画(下図マキシмумカード)には、バイソンや馬が描かれています。



ラスコー洞窟 2019.4.26



ニオー洞窟 1979.8.30 アリエージュ局 マキシмумカード [×0.8]



シヨールベ洞窟 2024.11.12 小型シート

【例会記録】

日 時：2025年9月14日（日）13：30～15：00

会 場：東部公民館2階 B会議室

出席者：出口・山本・蜂谷・郷・坂本・細井の6名

例会の主な内容

1. 会員相互による郵趣品の譲渡

今月も姫野氏から提供いただいた、沖縄切手・外国切手などを出席会員で分譲しました。

2. 交換支部報の回覧

3. 郵趣関連の情報交換

【次回の例会日程】

11月23日（日）13：30～16：00 東部公民館2階 A会議室

・11月は、会場の都合により、定例である毎月第2日曜の開催日が変更となっておりますのでご注意ください。

*12月以降の例会日程

2025年12月14日（日）13：30～16：00 東部公民館2階 A会議室

2026年1月11日（日）13：30～16：00 東部公民館2階 B会議室

【編集後記】

『郵趣1月号』から始まった、連載「魚木式郵趣」コンディション編では、「7つの原則」に沿って、コンディション（状態）について解説されています。

この原則とは、①相対評価の原則 ②劣化の原則 ③おもて第1の原則 ④バランスの原則 ⑤鑑賞中心の原則 ⑥説得性の原則 ⑦適切性の原則としています。

連載では、切手やカバーなどのマテリアルをカラーページでわかりやすく説明されており、自分のコレクションを充実させていくにあたって、これら7つの原則の重要性に今一度留意していきたいと思っています。

また、コラムでは、“収集家のコンディション”について、95歳（1930年5月生まれ）の魚木氏が、健康長寿ネタなどを交えながら日常を語っておられ、参考にしながら愉しく読んでいます。

表紙・本編の寄稿：蜂谷 紀之

記録：岩松 健一

編集・発行：岩松 健一